

中込内科じんぶん

11月号



今月の特集 不整脈について

I 心臓の電気の流れ

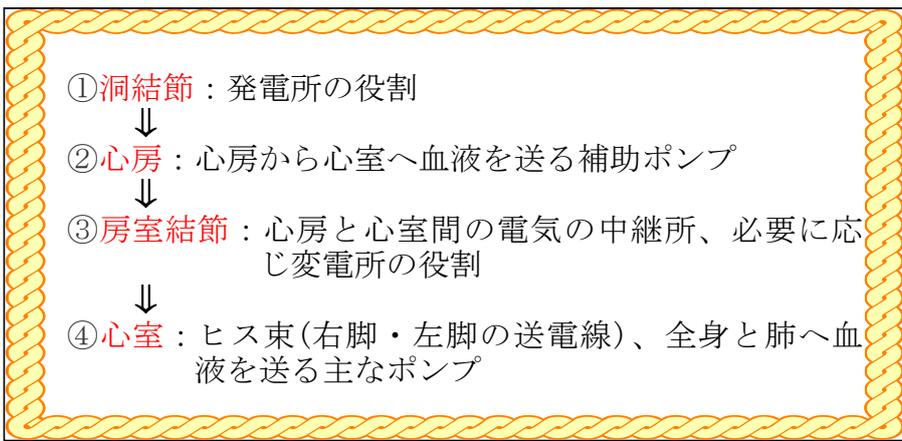
通常、心臓は1分間に約60回、1日にして約10万回前後、収縮と弛緩を交互に繰り返して拍動しています。

このリズムは、洞結節(どうけつせつ)と呼ばれる心臓の発電所から発生する電気刺激によって作られます。この電気刺激が心房全体に興奮を伝わり、心房を収縮させ、心室に溜まった血液を心室に送り出します。次に心房の結節という心臓の導管を通り、中継電線を伝わり、心室の電気刺激が伝わり、心室を収縮させ、全身と肺へ血液を送ります。

ヒス束(右脚・左脚)の送電線、全身と肺へ血液を送ります。

右の心筋細胞の収縮により全身と肺に送血します。

拍毎に血液を送り出しています。



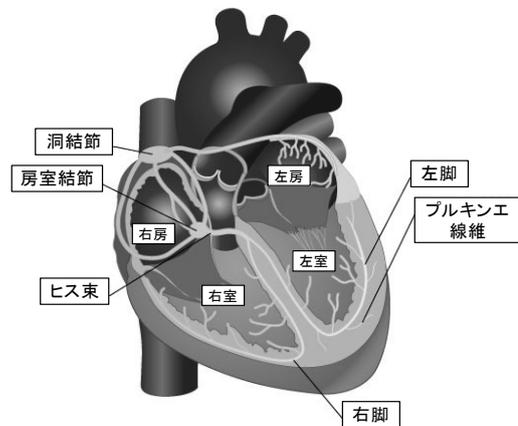
発行所
中込内科医院
〒010-0973
秋田市八橋本町3-1-5
TEL 018-862-1564
FAX 018-866-4655

E-MAIL
nakagomi@cna.ne.jp
URL
http://www.cna.ne.jp/~nakagomi/

II 不整脈とは

心臓の電気刺激が正常に働かなくなり、脈が不規則になってしまう状態のことを指します。

(図1) 刺激伝導系



① 不整脈の分類とその症状

① 期外収縮 (期外性期外収縮・心室性) (Premature contraction (Premature atrial contraction / Premature ventricular contraction))

瞬間的に脈が飛ぶ、脈が抜ける、瞬間的にドキッとすなど。

III 不整脈の原因

心筋梗塞や心臓の筋肉が障害を受けていることがあると、刺激伝導系にも障害が生じ、不整脈が生じやすくなります。

また、心臓以外の病気(例えばホルモンや血液の中の電解質バランスが崩れるような病気の場)や甲状腺の病気でも、不整脈が合併症として現われることがあります。

その他、加齢や高血圧、喫煙、飲酒、疲労、精神的なストレスなど、心臓に負担をかける様々な要因が複合的に重なり、不整脈を悪化させる場合も考えられます。

※必ずしもこの通りに症状が出現するわけではありません。それぞれの不整脈の感じ方には、かなりの個人差があります。

② 除脈性不整脈 (洞不全症候群・房室ブロック) (Atrial fibrillation (Atrial flutter / Atrial tachycardia))

脈が遅く、頭がぼーっとする、目の前が暗くなる、失神するなど。

③ 頻脈 (心房粗動・心房頻拍・発作性上室性頻拍・心室頻拍・心室細動) (Tachycardia (Atrial fibrillation / Atrial flutter / Paroxysmal supraventricular tachycardia / Ventricular tachycardia))

脈が速くなりドキドキが続く、短時間の胸痛など。

血圧低下によるめまいや失神など。

